



校長室だより

最 終 号
令和5年3月28日(火)
大崎市立沼部小学校
校長 吉田 浩之

大変お世話になりました

私はこの3月31日をもって定年退職となります。教職について35年です。9校、行政3か所の計12か所の学校等で勤務しました。教職最後の2年間をこの沼部小学校で過ごすことができ、とてもうれしくそして、ありがたく思っています。

コロナ禍ど真ん中での勤務開始でした。入学式は体育館で行ったものの、着任式と始業式は放送で行いました。そのため、子供たちとの出会いはよく覚えていません。そこで考えたことは、「毎朝昇降口で子供たちを迎えて、子供たちの名前を覚えよう。」マスク生活だけれども、ぬまっこの目は輝いていてとてもすてきでした。「いい学校に赴任したなあ。」と思いました。

業間や昼休みには外に出て、学年、男女問わず一緒になって遊ぶ。マスク越しだけれども屈託のない笑顔を見せてくれる。そんなぬまっこが大好きです。

木曜日を基本として週1回、校内放送で読み聞かせを行いました。木曜日になると「今日何読むの?」と聞かれました。読み終わると「今日のお話おもしろかった。」など感想をもらうなど、子供たちが楽しみにしてくれていました。子供たちからのリクエスト本を24冊読みました。たくさんの思い出ができました。そんな素敵な思い出いっぱいの沼部小学校を去ります。最後に、卒業式での式辞の一部を紹介して、お別れとします。

令和の時代を担っていく君たちに求められることは、生涯学び続ける人材になるということです。いつまでも大人が手を差しのべてくれるわけではありません。自分で考え、自ら行動していかなければなりません。たくさんの挑戦によって、「失敗慣れ」という経験もしなければならぬのです。そして、失敗した原因を考え、その点を修正して再チャレンジするという乗り越え方が大切になります。ヒトは本来学びたいという欲求が強いものです。まず興味があることから学び始めましょう。そして多くの人と関わりをもちながら、学び続けてください。君たちはこの6年間で学ぶことの基本を身に付けました。多くの方々から支えていただきながら、自分たちで磨き上げた大切な力です。

すてきな子供たち、子供のことを一番に考えて行動する先生方、子供たちのことを見守ってくれる地域の皆様、何よりも、コロナ禍で様々なお願いに対し、子供たちのためにと、快く御理解、御協力いただいた保護者の皆さま、2年間本当にお世話になりました。古川のイオン辺りではばったり会うこともあるかもしれません。その時はぜひ声を掛けてください。

みなさま、お元気でさようなら。ありがとうございました。

